

平成20年3月15日号

No.59

# 3-15

発行／横手市役所 ☎0182-35-2111(代)

編集・デザイン／総務企画部 企画課

〒013-8601 横手市前郷字下三枚橋163 TEL:0182-35-2162 FAX:0182-33-6061

ホームページアドレス／<http://www.city.yokote.lg.jp/>

## 明確な農業経営ビジョンを

### 横手市農業担い手フォーラム

効率的かつ安定的な農業経営の確立が課題となる中、所得向上に向けた複合経営の推進を目的としたフォーラムが2月27日、秋田ふるさと村で開催され、集落営農関係者など600人以上が参加しました。

これは、横手市地域担い手育成総合支援協議会が主催したもので、はじめに旧琴丘町(現在の三種町)



出身でテレビなどでコメントターターとして活躍する橋本五郎氏(読売新聞特別編集委員)が講演。続いて複合経営に取り組み集落営農組織など5団体による事例発表が行われ、「メンバーが真剣に討論してさまざまな課題を克服した(生産組合大地)」「自由に仕事ができ、結果がすぐに現れるのが農業の魅力(横手市農業近代ゼミナール)」などの意見が出されました。

また、平成18年度横手食育見聞録作文コンクールで最優秀賞を受賞した柿崎みのりさん(横手南小6年)が「学校でナスを育て、野菜を育てることの大変さと収穫の喜びは特別だということを一本の苗から教えられました。野菜を作ってくれる人の思いを忘れず、食べ物を大事にし、残さず食べたいです」と受賞作文を披露しました。



作文を披露する  
柿崎みのりさん

講演 「日本政治のゆくえと地域の再生」



読売新聞特別編集委員  
橋本五郎氏

東京に住んで40年以上。日本の政治には根本的に疑問を持っている。例えば、道路特定財源問題は、ガソリン代が上がる下がるの議論では何も生まれない。どうすれば国民が幸せになるかという議論の本位なしに論じるべきではない。

農業に関しては、食料自給率が低いにも関わらず、耕地面積は減少し、農業人口も減少している。子供たちが食べ物を選ぶ自由も大事だが、自分の親が作った米を食べないでどうするのか、故郷に誇りを持ってない政治ではない。また、政治は世の中の「痛み」に対して敏感でなければならぬ。光の当たらないところに光を当てるためにあるもの。

今後、地方をどうやって立て直すか。地方の人たちも自分のまちについて考え、努力していくことが必要ではないだろうか。

(要旨)